



まるで15年前の四万十川

北川は全国トップクラス

アユの生態調査 専門家 天然産卵場に卵びっしり 高い評価

高橋勇夫さん



延岡市北川町を流れる北川に生息するアユを守ろうと同町の北川漁業協同組合(長瀬一三組合長)は14日、全国各地でアユの生態について調査している高橋勇夫さん(55)とたかほし河川生物調査事務所を招いて、河川とアユの視察を行った。高橋さんは「15年前の四万十川を見ているよう。全国でもトップクラスの河川」と高く評価した。

高橋さんは、昭和56年から西日本長崎大学水産学部卒業の農学博士。昭和三十九年から西日本科学技術研究所で水生生物の調査とアユの生態研究に従事。平成15年に「たかほし河川生物調査事務所」を設立した。現在、全国各地の河川で天然アユを増やす活動に取り組んでいる。

視察には、北川漁協と東海漁業協同組合(内田裕之組合長)、五ヶ瀬漁業組合(柳田昌則組合長)の組合員、あゆの渡辺延岡淡水養魚場の後藤慎治場長らが参加。天然の産卵場6カ所と、今月初旬に北川、東海漁協が重機を使って整備した産卵場を調査した。

高橋さんは、ドライスーツを着用して川に潜り、アユの数やサイズ、産卵の有無、川底の状態などを調べた。高橋さんによると、川の良しあしは川底を見れば分かるという。砂や泥で固められた状態では、アユが産卵できない。北川は石と石の間に隙間があり、浮き石状態が好ましく、かなりいい状態」と高く評価した。

天然の産卵場については「100点満点で評価すると、全国的には悪い所で5〜30点、平均が40点のなか、北川は80点はある。卵がびっしりついている。全国で5本の指に入るほど。こちらが勉強になった」と驚いていた。

一方で漁協が整備した産卵場では「造成方法は良く、きれいに仕上げている」と評価したが「産卵した形跡はあまりない。産卵と整備のタイミングが合っていないのかも」と指摘した。

長瀬組合長は「専門家から褒めてもらえてうれしく思うが、私は、もっときれいでアユがたくさんいた北川を知っている。川の状態を維持するのではなく、年々きれいになるよう努力を続けていきたい」と話した。



高橋さん(左)からアユの産卵の説明を受ける参加者

高橋さんは、ドライスーツを着用して川に潜り、アユの数やサイズ、産卵の有無、川底の状態

メガネのサトー 35周年特別企画

健康と美容フェア

日時 11/22(木)・23(金) 10:00~18:00

メガネのサトー 大貫店

遠赤外線効果を実感できる 癒しのシタージュ

ハンディー型マッサージ器 タッピー

Escolidon

リファ